

男女共同参画 川柳コンテストを開催

「男だから…、女だから…」という性別による決めつけ、家庭での家事分担に関する事など、「男女共同参画」をテーマに詠んだ川柳を募集したところ、233点の応募がありました。そのうちの入賞作品をご紹介します。

みなさんも、思い当たることはありませんか？



第39号



優秀賞

【エピソード】
家事・育児とも共働き両親・兄妹が力をあわせる家庭
としたい。

参画で仕事も家庭も いい未来

柿平光輝さん
(三条町)

【エピソード】
いつも母に言われる言葉です。リタイヤした父と二人暮らしの母は、老後に備え、父に掃除や洗濯・食事の支度、後片付けを少しずつ教えています。しかし、これまで何もしてこなかった父は失敗ばかり。「お父さんソックリや!!」と息子の私まで、とぼちちりで一緒に呆れられています。

家事指南 覚えぬ夫 似る息子

好多洋介さん
(六番丁)

特別賞

【男女共同参画
審議会会長賞】

【エピソード】
パパの料理が日に日に上手になっていくので、うれしいです。

おいしいね パパの料理 うであげた!

横井萌々香さん(飯野町東分)

最優秀賞

家事やるよ やるやる詐欺は もうごめん

岩坂慎也さん(原田町)

【エピソード】
家事を手伝うと言いながら、なかなか手伝っていない様子を川柳にしました。やると言うとすぐに行動しなければいけないと日々思う所です。やるやる詐欺は俺オレ詐欺をもじって川柳に取り入れました。

入選

シェアしよう ポスト・貸金・家事・育児

石井由美子さん(川西町北)

飯に風呂 亭主閑白 もう古い

伊藤千夏さん(三条町)

「ごはんまだ?」私も言いたい「ごはんまだ?」

高尾朋恵さん(通学先・飯山町)

副業で パティシエになれるよ お父さん

鐘ヶ江亜弥さん(土器町東)

お父さん 娘抱えて 幼稚園

小山純子さん(城西町)



表彰式の様子
(平成30年2月17日)

その情報、信じて大丈夫？

メディア・リテラシーってなに？

「メディア」とは、テレビや新聞、インターネットなどの情報を伝達する媒体のこと、「リテラシー」とは、読み書き能力のことを言います。つまり「メディア・リテラシー」とは、テレビやインターネットからの情報を鵜呑みにせず、読み解いて使いこなす力のことです。

メディアから発信される情報は、ありのままを伝えているものではなく、発信する側の考えによって切り取られたり、加工されたりしていることがあります。



ジェンダーの視点でメディアの表現を見てみると…

毎日何気なく見聞きしているテレビのニュースやCM、インターネットなどからのたくさんの情報。次のような表現をジェンダー*の視点で見ると「あれっ？」と思うことはありませんか。

* ジェンダーとは、「男らしさ」「女らしさ」など、社会的、文化的につくられた性別のことです。

ケース
1

ヒーローは男の子だけ？

映画やアニメ、絵本では、さらわれたお姫様を勇ましい王子様が助けるというストーリーをよく見かけます。また、戦隊モノの主演、ヒーローはほとんどが男性です。



性別によってイメージを固定していませんか。

「王子様（男の子）は勇敢で強い」「お姫様（女の子）はかわいらしくて優しい」のような「男性像」や「女性像」。

また男の子は青や黒が好きで外でサッカー遊びをしている、女の子は赤やピンクが好きで、スカートを履き、人形で遊んでいるなどのように、性別によって色や服装、遊びなどを決めつけていませんか。



男の子も女の子も好きな色を選び、好きな服を着ていいんです。外で活発に遊ぶ女の子も少し消極的な男の子もいます。また、女性のヒーローが主演の物語や、勇敢な女の子が男の子を助けるといったストーリーがもっとメジャーになるといいですね。性別ではなく、ひとりの人間としてそれぞれがもつ多様な個性を大切にしたいですね。

～メディア・リテラシーを身につけよう～

ケース
2

エプロンは女性のもの？

「エプロンをつけた妻が料理を作り、子どもと一緒に夫の帰りを待っている」というテレビのワンシーン。また、料理をしていないのにエプロン姿の女性を描いたイラスト。メディアで描かれている、エプロンをつけ、料理をしている人は、ほとんどが女性です。



「男性は仕事」「女性は家事」と決めつけていませんか。

「男性は仕事」「女性は家事や育児、介護」などのように性別で役割を固定化していませんか。

下のグラフを見ると、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方（固定的な性別役割分担意識）について、40.9%の方が「賛成」「どちらかといえば賛成」と回答しており、まだまだそのような意識が根深く残っているといえます。

最近では、家事や育児、介護に積極的な男性も徐々に増えてきています。今後は、エプロンをつけて料理をする男性や親の介護をする男性のような表現ももっと増えてほしいですね。



●「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について



資料：平成27年丸亀市男女共同参画に関する市民アンケート

最近変わってきたことも・・・

●ランドセルの色

以前は、男の子は黒、女の子は赤がほとんどでしたが、最近では水色や茶色、紫色などカラフルになり、自分の好きな色を自由に選択できるようになってきました。



●職業選択

以前は、男性・女性のどちらかに偏っていた職業も、最近は男性の保育士や看護師、女性の消防士や医師などもずいぶん増えてきました。



メディアからの一方的な情報に影響されないためにも、情報に対して受け身になるのではなく「どうして」と疑問を持ち、考えてみましょう。

男女共同参画社会を実現するためには、私たちは、その情報を「ジェンダーの視点」を持って受け取り、読み解いて使いこなす力をつけることが大切です。

平成29年度男女共同参画モデル保育所

飯野こども園の取り組み

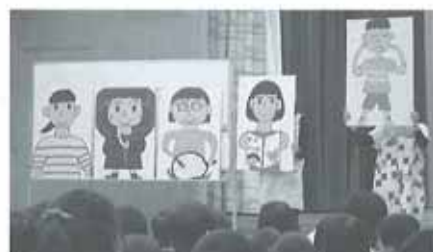
丸亀市では、子どもたちにも男女共同参画への理解を深めてもらうため、毎年度モデル保育所を指定し取り組みを進めています。

飯野こども園では、10月24日に「飯野っこ集会」が行われました。

「泣いているのは男の子？ 女の子？」

「ピンクの服を着て、料理をしている人は男の人？ 女の人？」

子どもたちや参加した保護者の方は、ジェンダーに関するクイズをみんなで考えたり、絵本の読み聞かせに聞き入ったりしていました。集会では「男や女などの性別にとらわれずに、一人ひとりの個性や生き方を大切にしよう。自分らしく生きよう。」と、メッセージを伝えていました。



市内企業でも「働き方改革」が進んでいます



(左から)

池田卓也さん(株式会社池田工務店 代表取締役)

和泉清憲さん(丸亀シティーサービス協同組合 代表理事)

馬場健輔さん(株式会社馬場建設工業 代表取締役)

丸亀市では、今年度市内企業3社にワーク・ライフ・バランス推進のためのコンサルタントを派遣し、社員の視点から働きやすい職場環境をつくるための支援を行いました。

今回は、その取り組みの内容や効果について、3人にお話を聞かせていただきました。

本事業に取り組むことにしたきっかけ

池田：人手不足が著しい昨今では、建設業界全体として「働き方改革」の必要性が叫ばれています。しかし、当社のような小規模な会社では対応できないと思っていたところ、本事業のことを知り、この機会に社員全員でチャレンジしようと思いました。

和泉：業務に比較的時間の余裕があり同一作業の反復が多いことから、本来目指すべき安全や確実に業務を行うことに支障をきたす懸念がありました。研修を通してのスキルアップ等、自社での取り組みも行ってきましたが、より充実した職場環境をつくり、意欲的に仕事ができる環境づくりを目指し、取り組みました。

馬場：従業員の働きやすい環境づくりや人材育成のために、専門家の意見や、他社の取組内容に関する情報を得たいと思いました。そのほか、自分自身の視野を広げたいとの思いもありました。

取組内容

池田：・社員アンケートやヒアリングを実施。それらにより明らかになった当社の現状と社員の本音に対する、経営者サイドの姿勢・取り組みを整理。

- ・すぐに対応できる課題(例えば休日の確実な取得、社内での意見交換の場の設定など)について社員全員で打開策を検討・実施。
- ・社員間の人間関係の改善が必要との思いから、「お互いの長所を見る」セミナーを全員で受講。

和泉：・業務の幅を広げるため、他業務への調査を含めたアプローチ。

- ・円滑な業務の遂行のためのコミュニケーション研修。

馬場：・当社の求める人材像の整理、人材育成方針の決定。経営理念の文章化。

- ・コミュニケーションを取りやすくするために、全従業員が意見を言いやすいような場を設置。

取り組みの効果

池田：労使間で真剣に「働き方」について考え、取り組んだことにより、社員間の会話が増え、社内の風通しが良くなりました。また、従来、トップダウンだった会社の利益向上についても議論するようになりました。

思いがけなかった効果として、これまで行ってきた当社の地域活動を評価していただき、「香川県子育て行動計画策定企業認証マーク」の取得にもつながりました。

和泉：コミュニケーション研修を通し言葉の大切さを再認識し、個性を尊ぶ風通しのいい職場環境に変化したように思います。また、余裕のある時間を、安全運行に関する研修に活用するとともに、他業務への取り組みも増えてきました。

馬場：経営理念を文章化したことにより、会社のありべき姿について従業員も理解しやすくなりました。また、ミーティングスペースを設けたこともあって、若手社員も意見を述べやすくなり、分からないことはすぐに確認するなど、上司からの指示を待たずに積極的に行動するようになりました。

編集後記

ジェンダーにとらわれていない例を紹介します。あるおもちゃのブロックのカatalogでは「男の子向け」「女の子向け」ではなく「ヒーロー編」「なかよし編」など、テーマでの分類をしています。また、TVゲームでは、性別をこえて自由に服装を選べるものも増えています。こういう身近な所から、個人が自由に生きられる世界になっていくとよいですね。(T)